

自衛隊 Self Defense Force

戦後、一切の軍備を放棄して軍隊を持たなかった日本。軍隊に代わり国内の治安維持、防衛のために1950年（昭和25年）に誕生したのが自衛隊です。

陸上自衛隊 Japan Ground Self Defense Force

陸上自衛隊では日本を5つの区域に分け、それぞれに「方面隊」を配置しています。東海・北陸・近畿・中国・四国地区を担当する「中部方面隊」の中で、四国4県を防衛警備・災害派遣・民生協力などの任務を統括する「第14旅団」に属し、高知県を担当するのが「第50普通科連隊」です。

50 第50普通科連隊

香我美町に移駐してくる第50普通科連隊は、平成18年3月27日、高知県の防衛警備および災害派遣等を担任するために香川県善通寺の地に新たに誕生しました。

これは、平成12年に策定された中期防衛力整備計画に基づき、昭和56年から約25年にわたって四国4県の防衛警備・災害派遣・民生協力などの任務を担当していた「第2混成団」が「第14旅団」に格上げされ、基幹部隊として普通科連隊が新設されたものです。

その中で、高知県には第50普通科連隊の配備が決定し、本市に移駐して県内の防衛警備および災害派遣を担当することになりました。



シンボルマーク
■第50普通科連隊を大きく、数字で力強くアピール
■高知県の文化になじみの深い鯨を使用することにより、その強さと躍動感を表現
■高知県花の「ヤマモモ」の葉を描いたもので、高知県の地域性を表現

新高知駐屯地(仮称)

第50普通科連隊は、現在、第14施設中隊が駐屯している香我美町岸本の高知駐屯地から北東約2kmのところにある鳥越地区(右図参照)に移駐します。

平成18年から、約16畝の規模で造成工事を開始し、現在は、本年2月末の完成を目指して庁隊舎や倉庫などの建築工事が進められています。

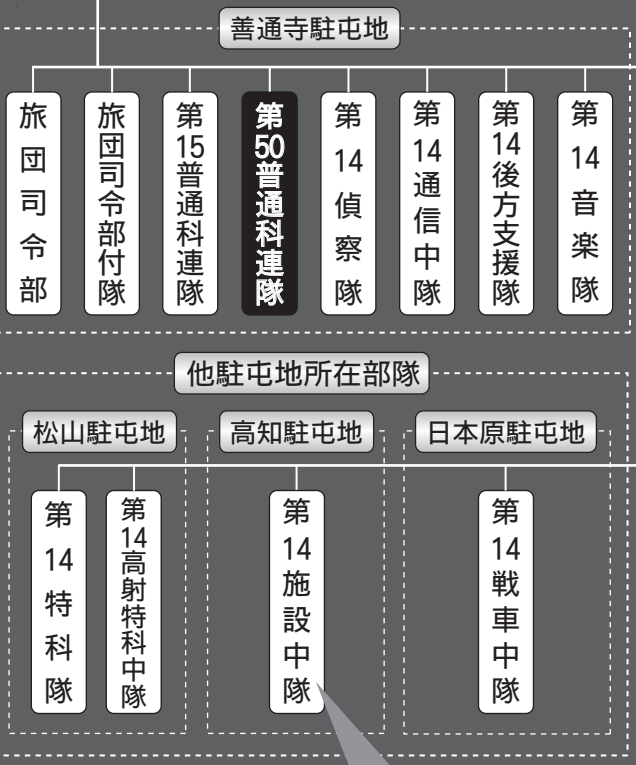
【位置図】



組織図

※旅団…古代中国の軍隊の単位「旅」に由来

香川県善通寺市に司令部を置き、善通寺駐屯地をはじめ、松山駐屯地、日本原駐屯地（岡山県）、高知駐屯地の4つの駐屯地を統括しています。



昭和37年から香我美町岸本に駐在している部隊で、高知県の警備、災害派遣および広報など、民生協力の任務を負っています。

第50普通科連隊の移駐に伴い、平成23年度末をめどに徳島県阿南市に移る予定となっています。移駐後の施設利用については、現在のところ未定です。



地域と共に

陸上自衛隊「第50普通科連隊」がやって来ます。

Self Defense Force



共に歩むために

いよいよ、あと3カ月足らずで第50普通科連隊が私たちのまちにやって来ます。

市民の皆さんに移駐に関する知識と理解を深めていただくために、第50普通科連隊の役割や活動内容などを紹介します。



決定から7年を経て

この第50普通科連隊が高知県に移駐する計画に、平成11年から県内の自治体が誘致合戦を展開し、旧香我美町だけでなく旧5カ町村が一体となって調査・研究を重ね、誘致に取り組んできました。その結果、交通アクセスや地盤の堅固さといった立地条件などをもとに、平成15年に香我美町鳥越地区への移駐が決定されました。

そして平成18年から駐屯地の造成工事に着手し、現在は、庁隊舎など施設の建設工事が急ピッチで進められています。また、道路の改良工事や人口の増加による学校施設の増築など周辺のインフラ整備を進め、受け入れ体制を整えています。



人口の増加

平成22年3月末、香我美町上分の鳥越地区に陸上自衛隊「第50普通科連隊」が移駐します。

市にとっては、迅速な災害対応への期待のほか、隊員および家族など人口の増加は約一千人（連隊定員700人と推計され、地域経済の活性化が見込まれています）。



今春、三月末
香我美町へ